

# 学校において予防すべき感染症及び出席停止の期間について

第一種	病名	主症状	潜伏期間	感染経路	感染期間	出席停止期間	備考
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)及び特定鳥インフルエンザ(感染症法(平成10年法律第114号)第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。以下において同じ)については、「治癒するまで」、出席停止となる。 ※感染症法 第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、第一種の感染症とみなす。						
第二種	インフルエンザ 【特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く】	高熱(39~40℃)、倦怠感、頭痛、腰痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻汁	1~4日	飛沫接触	発熱1日前から3日間をピークとして7日目頃まで	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては3日)を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 発熱や意識の様子に気をつける
	百日咳	連続して止まらない咳が特徴	7~10日	飛沫接触	咳が出現してから4週目頃まで	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	生後3か月未満の乳児では、呼吸が出来なくなる発作、脳症などの合併症に注意
	麻疹(はしか)	発熱、咳、くしゃみ、鼻汁、目の充血、口内の頬粘膜にコプリック斑(白い斑点)、発疹	8~12日	空飛沫接触	発熱出現1~2日前から発疹出現4日目頃まで	解熱した後3日を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 ※麻疹(疑い含む)と診断された場合は、ただちに、学校(園)に連絡してください。
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺・顎下腺の腫れ・痛み	16~18日	飛沫接触	耳下腺等の腫れる1~2日前から腫れた後5日後まで	耳下腺、顎下腺、または舌下腺の腫脹が発現した後、5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	無菌性髄膜炎、難聴などの合併症に注意 思春期以降は、精巣炎、卵巣炎の合併あり
	風疹(三日はしか)	発熱、発疹、リンパ節の腫れ	16~18日	飛沫接触	発疹出現7日前から出現後7日目頃まで	発疹が消失するまで	妊娠早期の感染は、出生児に高い頻度で先天異常を認める ※風疹(疑い含む)と診断された場合は、ただちに、学校(園)に連絡してください。
	水痘(みずぼうそう)	発疹→水疱→膿疱→かさぶた 軽い発熱	14~16日	空飛沫接触	発疹出現1~2日前からすべての発疹がかさぶたになるまで	すべての発疹が、かさぶたになるまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意
	咽頭結膜熱(プール熱)	高熱(39~40℃)、のどの痛み、結膜充血、目やに	2~14日	飛沫接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が最も多いが、その後数か月排出が続くこともある	主要症状が消退した後、2日を経過するまで	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	結核	軽い発熱、2週間以上続く咳、全身倦怠感	2年以内、特に6か月以内	空飛沫	喀痰の塗抹検査で陽性の間	病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	家族内感染に注意
	髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐	4日以内	飛沫接触	有効な治療を開始して24時間経過するまで	病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ	激しい水様性下痢、嘔吐	1~3日	経口			
	細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢、嘔吐	1~3日	経口			
	腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)	腹痛、水様性下痢、血便	10時間~6日	接触 経口	便中に菌が排出されている間		溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意
	腸チフス	持続する発熱、発疹	7~14日	経口		病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	パラチフス	持続する発熱、発疹	7~14日	経口			
	流行性角結膜炎(はやり目)	結膜充血、まぶたの腫れ、目の異物感、目やに	2~14日	飛沫接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が最も多いが、その後便からは数週間~数か月続くこともある		角膜に傷が残ると、視力障害を残す可能性がある ※医師の許可があるまで、プールには入らない
	急性出血性結膜炎(アポロ病)	結膜出血、結膜充血、まぶたの腫れ、目の異物感、目やに	1~3日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1~2週間、便からは数週間~数か月間		※医師の許可があるまで、プールには入らない
第三種 その他の感染症(主な疾患)	感染性胃腸炎 【ノロウイルス感染症 ロタウイルス感染症等】	嘔吐、下痢	ノロウイルス: 12~48時間 ロタウイルス: 1~3日	飛沫接触 経口	感染力は急性期が最も強いが、便中に3週間以上排出されることもある		下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
	溶連菌感染症	発熱、のどの痛み、扁桃の腫れ、ぶつぶつのある赤い舌、発疹とびひ(伝染性膿痂疹の欄を参照)	2~5日	飛沫接触	適正な抗菌剤治療開始後24時間以内に感染力は失せる		リウマチ熱や腎炎の合併症に注意 適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て、全身状態が良ければ登校可能
	急性細気管支炎(RSウイルス感染症等)	発熱、鼻汁、咳、「ゼイゼイ」「ヒューヒュー」という呼吸音	4~6日	飛沫接触	3~8日	条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例	発熱・咳などの症状が安定し、全身状態が良ければ登校可能
	伝染性紅斑(リンゴ病)	かぜ様症状の後に、両頬に少しもり上がった赤い発疹	4~14日	飛沫	かぜ症状出現から発疹が出現するまで		発疹のみで全身状態が良ければ登校可能
	マイコプラズマ感染症	激しい咳、発熱、頭痛	2~3週間	飛沫	症状のある間がピークであるが、保菌は数週~数か月間持続する		症状が改善し、全身状態が良ければ登校可能
	手足口病	軽い発熱(2~3日)、口の中に水疱ができ痛む、水疱は手足やお尻にもできる	3~6日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1~2週間、便からは数週間~数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱(39℃以上)、のどに水疱ができ痛む	3~6日	飛沫接触 経口	ウイルス排出は、咳や鼻汁から1~2週間、便からは数週間~数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱や膿疱が破れてただれ、かさぶたをつくるかゆみ	2~10日	接触	水疱から膿の出る間 【かさぶたにも感染性が残っている】	通常出席停止の措置は必要でないと考えられる感染症の例	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	伝染性軟属腫(水いぼ)	中心にくぼきをもつ1~5mmのいぼが、からだ・手足にできる	2~7週	接触			プールの入水は、化膿したり、悪化していない場合は通常許可してよい *タオル等の共用は避ける
	アタマジラミ	一般に無症状、吸血部位にかゆみ	産卵からふ化まで: 10~14日 成虫まで: 2週間	接触	シラミと卵がいなくなるまで		発見した場合、学校薬剤師の指示のもと、早期駆除を行う *タオル・くし・帽子等の共用は避ける

\* 参考文献: 「学校において予防すべき感染症の解説」 文部科学省(平成25年3月)、「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会(2017年4月改訂版)